

## 第5回 志津見ダム水源地域ビジョン推進委員会 議事概要

- 1 開催日時 : 平成28年2月26日(金) 16:00~17:30
- 2 場 所 : さつき会館(島根県飯石郡飯南町八神117-1)
- 3 出席委員 : 山碓 英樹委員長、山下 潔委員、藤原 昭男委員、横川 裕委員  
石原一志委員、舛田 直樹委員

### 4 議事次第

- ① 開会
- ② 挨拶山碓 英樹委員長(飯南町長)
- ③ 出席者紹介
- ④ 議事
  - (1) 第4回委員会以降の取組経過の報告
  - (2) 志津見ダム水源地域ビジョンの今後の予定について
  - (3) その他
- ⑤ 閉会

### 5 配布資料

- 資料-1 第4回委員会以降の取組経過の報告
- 資料-2 平成27年アクションプラン実施内容報告
- 資料-3 志津見ダム水源地域ビジョンの今後の予定
- 参考資料 志津見ダム水源地域ビジョン推進委員会設立趣意・規約・委員名簿
- 参考資料 志津見ダム水源地域ビジョン(中期版) 概要版

### 6 議事要旨

- ① 第4回委員会以降の取組経過報告及び平成27年アクションプランの実施内容について  
平成27年度のプロジェクト実施状況について、事務局より資料に沿って説明が行われた後、下記のような質疑応答を行った。

#### 【委員】

- ・「志々を元気にする会」でいろいろ議論や行動をされていると聞いているが、その状況を説明して欲しい。
- ・イベント時に花がないという指摘があるが、今年に入って天候が良いので、春のポピーは良く咲くと思う。年2回の植え替えがあり、上手く咲くと残して欲しいと言われ、次の種をまくタイミングが遅れると、それが咲く時期が次のイベント開催時と合わなくなる。
- ・卓上カレンダーは、どのぐらいの数を作成し、どのように配布したのか。
- ・この地区には「わっしょい志々会」もあり、「志々を元気にする会」と共に活発に活動しているが、

2つの組織がお互いに調整し、地域が活性化するような組織間の連携を十分に図った方が良い。

- ・「わっしょい志々会」は今年3月までという話しもあるが、それで終わらせるのではなく継続し、将来に向けて両組織が有効に機能するような方策を講じて欲しい。会の活動で桜を植えた所も今は肥料が足りないなど、継続しなければならない取組みもたくさんあるので是非、支援して欲しい。

#### 【事務局】

- ・「志々を元気にする会」は今年度は5回、概ね2カ月に1回ぐらいのペースで開催し、夕方からこのさつき会館に集い、中期に入ったアクションプランのそれぞれに対して「できることは何か」といったことで意見交換をしている。
- ・家畜の放牧や乗馬体験、ラジコンボートの操縦体験については、コスモス祭での実施の可否について協議し、実行可能な範囲で展開した。
- ・田舎体験については、志々地区の違う地域でどこかないだろうかということで検討し、営農組合が非常に活発に動いている大宇獅子地区に対して話しを持っていった。
- ・卓上カレンダーは昨年12月に完成し、志々地区の全戸数が約200戸なのでそれを踏まえた数量として500部作成した。各戸には昨年末に既に配布済みであり、志津見ダム管理支所にも100部程度在庫があるが、今後はダム見学などで訪れた方に配布し、春先までには配り終えたい。
- ・「わっしょい志々会」は「住みよい地域創造事業」の中で地域の持続的な運営のあり方を検討し、「バス」や「買い物」、「若年層のUターン」といった地域課題を3年間検討した。現在、「志々を元気にする会」との連携は無いが活動は類似しているので、合同会議などで情報を共有しながらお互いの目的を達成できれば良い。
- ・今後は、町としては「わっしょい志々会」の活動を実践していくような経費を予算化するようにしており、フォローアップ事業として平成28年度以降も会の活動を支援していきたい。

#### ② 志津見ダム水源地域ビジョンの今後の予定について

平成28年度の水源地域ビジョンの今後の予定について、事務局より資料に沿って説明が行われた後、下記のような質疑応答を行うとともに、平成28年度の実施計画については承認を得た。

#### 【委員】

- ・現状のもみじの植栽は素晴らしいものになってきており、当初は「紅葉が一番！」ということでイロハモミジを植えた。しかし、奈良県内の村では廃校を活用し、カエデも含めてもみじを2,000種ぐらい植栽することで試験場のようになっている。この半分の1,000種ぐらいをここでも植栽し、「いろんなもみじがあります」ということになれば注目度が高まる。多様なもみじがあれば、研究の立場からでも使っていただける可能性があるため、当初の計画を多少変更したほうがよい。
- ・剪定については、全面に枝が出てきているようなところは雪が降ると押し出されるので、倒木の危険性が高まり、気を付けた方がよい。
- ・乗馬体験については、訓練を受けて山を歩くといったことであればサラブレッドではなく、アメリカのインディアンの馬を輸入するらしい。金城町のウエスタンライディングパークでは、そのような馬が40頭ぐらいいる。
- ・ダムサイドの大きな公園は立ち木や東屋があるだけで、夏は暑くて休憩もできない。
- ・志津見の妙見神社の跡はトンネルを出たところに大ガシがあり、ちょっとした階段はつくってもら

ったが、そこに看板があればなお良い。妙見神社には5m以上のイチョウの木も2本ぐらいあり、紅葉も綺麗なので、もう少し整備して公園のように利用できるようにしたら良い。

- ・紅葉を楽しむ時、遊歩道があると良い。湖を見るとできなくても、立ち木の中でもいいので歩道を整備したら人が来て歩くのではないか。そのような歩道整備は、他のダムでも良くやっている。
- ・この地区は谷が深い関係で魚釣りも出来ず、遊ぶところが全く無い。ダムのボート置き場の所が湾になっているが、その周りで釣りが出来るようになれば良い。
- ・菜の花については、花が咲く時期が意外と寒いので、それを見に来る人はいない。菜の花で成功している地域は、和歌山とか大概暖かい所である。この辺りでも神戸川の護岸など、種が落ちて生えた所はかなりきれいに咲く。菜の花は、秋には大きくしておかないと春に大きな花が咲かない。田んぼでつくるのはポピー、コスモス、そして菜の花になるが、苗づくりしないと間に合わない。
- ・現在、この地域には手土産として持って行くような特産品が無い。特産品として豆腐を売っているが、手土産にはならない。この地域には八福神という名前がいいものがあり、角井ではいい福神漬けがあるので、あとは上手くパッケージにすれば手土産になるのではないか。今後の予定では漬物、豆腐スイーツなど具体的に記載されているが、どのように進めていく段取りになっているのか。
- ・ケーキ屋のお菓子は賞味期間が短いので、手土産としては漬物セット、お酒セットぐらいが良い。商工会でも以前から特産品について協議は重ねているが、きちんと販売することが重要であり、この店限定といったことでは良くない。日持ちするお菓子なら良いと思うが、ケーキ屋が志津見には無く、赤名に1軒あるのみ。

#### 【事務局】

- ・現在、もみじの新植のペースを落としており、もみじがある程度大きくなってきたので管理に予算を集中している。新植は来年度も50本余りを予定しているが、その中でご提案いただいたように新しい種類のもみじを植えてみることも検討してみたい。
- ・森脇線にはもみじも含めていろんな樹種の木を植えており、志津見大橋の左岸側の木が大きくなれば見応えがある木になる。
- ・乗馬体験は元気にする会で「やりたい」という意見があり、アクションプランにも入っているので検討した。しかし、20年近く前、イベントで乗馬体験を実施したら馬が興奮して暴れたためにケガ人が出たらしく、安全性に十分気をつけなければならないといった認識から今回は見送った。
- ・乗馬体験を試験的にうぐいす茶屋の向こう側で実施したが、馬が高齢だったこともあり、特に暴れるということは無かった。しかし、イベントのときはスピーカーの大音量に驚き、馬が暴れてしまう危険性もあるので慎重に対応した方がよい。
- ・イベント時に乗馬体験の保険について相談したいという話があり、尾原ダムの周辺でホースセラピー体験を実践している団体があるので、一緒に見学に行つてノウハウをご教授いただいた。今後はそういったことも踏まえ、実現の可能性を探りたい。
- ・看板については前回の推進委員会でも意見があり、「わっしょい志々会」で今年度に検討する予定だったが、今回はベンチを制作してさくら広場に設置する活動を実施した。この木工技術を活かし、「看板をつくりませんか」という相談を「元気にする会」でも行つたが、実現には至っていない。
- ・花が少ないのは連作障害もあり、土自体が非常に養分が少なくなっていることから、近年は堆肥等を入れて地力を上げる努力をしている。そのような中、祭りの時に全く花がないということが無い

よう、ワイルドフラワーといってポピー以外の花も少しまぜて種まきをする対策を講じ、その中に菜の花の種も含まれている。

- 特産品については、志津見のほうに地域おこし協力隊が来ており、彼女がいろんな地域の食材を活用して菓子などを開発中である。この取組みは外部からの指導もあって取り組んでいるので、それらを是非、お土産品として確立していきたい。
- ヤマメの押し寿司については、飯南高校生の発案で生まれた商品で、この1月に限定2日間、60食をうぐいす茶屋で販売した。そういうことも今後、継続的な取り組みになっていけばいい。八福神のネーミングでは、公民館でいり米やこれまでの成果を商品化するというで考えており、世の中へ出ていくような形でのお土産に育っていけば良いと思う。

以上